



福島信用金庫

人と食をつなぐ「だてな美食プロジェクト」 6次化商品ブランド化を目指して 官民連携の組織を設立、地元産品の 販路開拓やPRなどに力を注ぐ

福島信用金庫が、福島県伊達市(以下「市」と地域創生に関する「地域密着総合連携協定」を締結した2015年から育んできた事業が大きく結実した。2019年、6次産業化により生み出された産品のブランド化を目指し官民連携の「だてな美食倶楽部」を組織。2020年には、市の農産物を活用した「6次産業化商品」(以下「6次化商品」)を民間ベースで開発するため、道の駅を運営するりょうぜん振興公社および包括連携協定を締結していた福島学院大学と共に「だてな美食健康アカデミー」を立ち上げ、市内の美味しい農産物や食材を使用した商品を全国へ届ける仕組みづくりを事業としてスタートした。この事業は、信金中央金庫が窓口となって募集した日本財団「わがまち基金」に応募し採択された。

事業における主な活動は、①6次化商品のアイデアコンテストおよび新商品ビジネスプランコンテストを開

催し、商品化までをハンズオン支援、②地元の特産物(フルーツなどの農産物)を加工した6次化商品の販路開拓、③6次化商品を開発するノウハウについて習得する「美食マイスターカレッジ」を開講しゼミ形式の講座を開催し、当金庫の農業経営アドバイザーが中心となり、人材育成を支援し、6次化商品の開発をハンズオンで支援しつつ、地元産品の販路開拓に力を入れている。道の駅伊達の郷りょうぜんを拠点に、マーケティング調査、6次化戦略の検討、福島学院大学生のスタディーツアーを経て、2021年に6次化商品ビジネスプランコンテストを実施。表彰された「プレミアムあんぼ柿本陣」「砂糖不使用 あんバター」「日本酒で仕込むフルーツ酒」「あんぼ柿のプリオッシュパン」「伊達な和漢ブレンド」「苺のフルーツピネガー」「乾燥いちごの紅茶」「サンングリアセット



2021年9月に開催した6次化商品ビジネスプランコンテスト(応募総数15作品)で最終審査の結果、表彰された8作品

「だてっしゅ」の8品について、連携先の道の駅に設置したアンテナショップで販売のほか、イベント出品でのPR活動などを行っている。

さらに聖光学院高校と「四季の宅配便」スイーツセットを開発し専用のECサイトを立ち上げた。「伊達市の美味しい!」を全国へ届けたい」を合言葉に「だてな美食」を今後も幅広くPRしていく。



ビジネスプランコンテストでグランプリを受賞したニューキムラヤの金木義一社長に盾を贈呈する当金庫大橋達夫常務理事



2021年3月、6次化アイデアコンテストに向けて、農業経営アドバイザーの資格を持つ当金庫職員とのフィールドワークを踏まえて福島学院大学生が消費者目線でマーケットインのアイデアを考案した



福島学院大学生が6次化アイデアコンテストに向けて、道の駅伊達の郷りょうぜんでフィールドワークを実施。これとは別に学生とともにスタディーツアーも催行した

ビジネスプランコンテスト受賞作品について、商品販売に向けて準備を進め、2022年3月から道の駅伊達の郷りょうぜんのアンテナショップで本格販売がスタートした



専用ECサイト「四季の宅配便」にはこちらのQRコードを読み取りアクセスできる



開発にあたりアイデアの考案に協力した聖光学院高校の生徒が「四季の宅配便」をPR



伊達市産の果物を使用した「四季の宅配便」を開発する6次化塾のワークショップを開催



2022年12月、よい仕事おこしフェア(東京ビックサイトで開催)に出展。首都圏のバイヤーとの商談にも臨み、ビジネスチャンスの創出に努めた



6次化塾の成果を基に地元製菓事業者の協力を得て完成した「四季の宅配便」の夏セット。「伊達市のことを思い浮かべながらティータイムを楽しんでほしい」との思いから市にちなむスイーツと飲み物の一組にした。このほか春、秋、冬のセットがある

伊達市の美味しい!を全国へ届け隊

福島信用金庫 総合企画部
今野 孝敏

福島県伊達市は、仙台藩伊達家発祥の地です。農業生産が盛んな土地柄できゅうりなどの野菜類や桃を筆頭に様々なフルーツを生産しております。

東日本大震災後、農業従事者の高齢化も相まって、耕作放棄地が増えました。伊達市にとって死活問題であり、風評により新鮮な野菜や果物の生産が盛なくなりました。

だてな美食「on-line・食Ping」プロジェクトは、「伊達市で生産された農産物を使用した6次化商品を開発して全国へ届けたい! 若者の目線で6次化商品のアイデアを発掘しよう」の合言葉がこのプロジェクトの支えとなっています。

アイデアコンテストに参加していただいた福島学院大学の学生さんや6次化塾で四季の宅配便の開発に関わっていただいた聖光学院高校の生徒さんに心より感謝いたします。専用ECサイトで「伊達市の美味しい!」を全国へ発信してまいります。

郷土の美味しいを皆様と共に

福島信用金庫 理事長
樋口 郁雄

このたびは第27回信用金庫社会貢献賞「Face to Face賞」受賞の栄誉を賜り、心より御礼申し上げます。

美味しさと品質の高さで知られる郷土伊達市の農産物は、原発事故の風評被害を受け、価格が大幅に下落しました。それでも生産者の皆様は、名産地の誇りを守ろうと懸命に上質な農産物を作り続けています。このような中、郷土の美味しいを6次化商品で全国に伝え届けたいと、官民連携で辿り着いたのが、『だてな美食プロジェクト』です。伊達市の農産物・食材を活用した商品開発には、地元の高校生・大学生が参画し、地元菓子店・道の駅・伊達市と共にプロジェクトを進めました。今回の受賞は偏にご協力頂きました全ての皆様のお陰でありまして、心より感謝申し上げます。

故郷の一日も早い復興に向け地域をしっかりと支えることが当金庫の責務であります。

今後とも地域とお客様に寄り添い、魅力的な地域づくりに貢献してまいりますので、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お祝いのメッセージ

受賞に寄せて

伊達市長 須田 博行

このたびは栄えある第27回信用金庫社会貢献賞「Face to Face賞」のご受賞、誠にありがとうございます。

福島信用金庫様は、2015年に締結した伊達市との「地域密着総合連携協定」を契機として、本市の6次産業のブランド化を目指し、様々な商品の開発に力を注いでいただいたことに心より敬意を表します。

今回受賞されました「だてな美食プロジェクト」では、地元の聖光学院高校と企業が連携し、本市自慢の農産物を使用した6次化商品「四季の宅配便」の開発やECサイトを活用した販売を行っていただきました。このプロジェクトを通じ、全国に伊達市のおいしい魅力が届けられることができたことは、大変うれしく誇りに思っております。

今後とも、福島信用金庫様が地域に愛される金融機関として、ますます発展されますことを祈念申し上げます、お祝いの言葉といたします。

会長挨拶/目次
応募概要と選考
選考総評
会長賞
Face to Face賞
個人賞
地域活性化・優秀賞
選考委員講評
これまでの受賞活動